

第59回小金井市市民参加推進会議

日 時 令和2年10月21日(水)午後7時00分～午後8時48分

場 所 小金井市役所第二庁舎3階301会議室

出席委員 10人

委員長 松田 恵 示 委員

副委員長 金尾 悠 香 委員

委 員 岡田 一 美 委員 鴨下 明 子 委員

橋田 壤 志 委員 竹田 祐美子 委員

村本 萌 委員 中村 彰 宏 委員

南 貴 之 委員 天野 建 司 委員

欠席委員 2人

森田 眞 希 委員 加藤 明 彦 委員

事務局職員

企画政策課長 梅原 啓太郎

企画政策課主査 東 條 俊 介

企画政策課主事 金 信 沙 樹

傍聴者 2人

(午後7時00分開会)

◎松田委員長 それでは、改めまして皆様方、こんばんは。委員長の松田でございます。本日はお忙しい中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。またコロナ禍での会議でございますので、今日はこういう作りになってございまして、特に委員長、副委員長は、このボードの圧迫感にちょっと負けそうなところはあるんですけども、そういうことは関係なく、しっかりとお話し合いができればと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

では、本日、森田委員と加藤委員が御欠席ということで、御連絡をいただいております。

会議の定足数につきましては、市民参加条例施行規則第24条に、半数をもって成立するとなっておりますので、本日12人中10人の御出席予定ということになってございますので、推進会議は成立しているということで、報告をさせていただきたいと思っております。

また、市のほうで机の消毒、換気等、感染防止に御配慮いただいておりますが、このような状況でございますので、効率的な会議運営ができたらと思っておりますので、よろしく願いいたします。また、御入室の際に手指の消毒等をお願いしているところでございますが、マスク着用ということで本日もいきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、会議に先立ちまして、配付資料の確認を事務局よりお願いしたいと思います。

◎事務局 では、初めに、人事異動がございましたので、御紹介をさせていただきます。新しく担当させていただきます金信です。

◎事務局 金信です。よろしく申し上げます。

◎事務局 それでは、資料の確認をさせていただきます。お手元に配付させていただいております資料は、次第が1枚、その下に資料が1から4までございます。不足のある方、いらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、進行させていただきます。

冒頭、議論に入る前に、資料1として、傍聴の方から意見・提案シートを提出いただいております。意見・提案シートについては、資料とした上で、皆様から審議に取り上げたいと申出があった場合に、審議を行うこととなっておりますので、今回頂いた意見・提案シートのお取扱いを御協議いただきたいと思います。

◎松田委員長 それでは、資料1ということで頂きました意見・提案シートを少し御覧いただきまして、御意見をしっかりと共有しながら進めていくということですが、さらに1つ議事として取り上げていくかどうかということなんですけれども、いかがでございましょうか。大変重要な御指摘がなされていると思います。前は、確かにコロナ禍ということはあったんですけれども、1時間程度で審議を終了させていただいたというようなところで、これは今後、しっかりと進めていきたいというようなところではございます。

では、こちらの御意見をしっかりといただきながら、本日の議論にも生かしつつ、このまま進めていくということで扱わせていただいでよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

◎松田委員長 ありがとうございます。

それでは、次第に沿いまして進めていきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

◎松田委員長 それでは、まず1つ目の次第、「Web会議の試行について」でございます。これは、意見シートでもいただいておりますので、こういう状況でございますので、様々ないろいろな場所で試されているものでもございますが、こちらについて、では事務局から御説明いただきたいと思います。

◎事務局 先日8月14日に、有志の委員の方に御参加いただきまして、ウェブ会議を試行いたしましたので、その際にいただいた御意見を、口頭ですが、報告させていただきます。

8月14日の15時半より1時間程度、ウェブ会議を行わせていただきました。当日は、金尾副委員長、岡田委員、鴨下委員、竹田委員、森田委員の5名の方に御出席をいただきました。その場では、特に何か議論をしたというわけではございませんで、市において運用を検討しているときでしたので、その説明をさせていただき、それに対する御意見をいただきました。

かいつまんで紹介させていただきますと、議論に通常より時間がかかるので、何を聞かれる

か事前に把握しておけるとよい、発言は挙手した人が行うやり方で問題なくできたなどの御意見をいただきました。市側といたしましても、ファシリテーターの職員が、なかなかずっと画面を見続けられないために、参加者の方の挙手に気付かないことが何度かありましたので、補佐的な職員がいたほうがよいですとか、また、ちまたでは映像をオフにして会議を行うことも多いと聞きますが、誰が話しているか分からなくなりますので、映像はあったほうがよいという意見がございました。その他、運用方法などに御意見をいただき、市の運用を決めていく際の参考とさせていただいております。御協力ありがとうございました。

ウェブ会議の試行については以上でございます。

なお、前回の審議の中で、ウェブ会議をこの会議の中で試してみたいとお伝えをしていたかと思えます。その段階では、審議会におけるウェブ会議の利用について、まずこの市民参加推進会議の中で試しにやってみるという趣旨でございましたが、この3か月の間に、市といたしまして実施体制を一定整えまして、既に一部の審議会でも利用が始まっております。そのため、この会議で試行する目的というのは既に達成しておりますので、本日のこの会議の中でウェブ会議の試行をするということは、行わないこととさせていただきたいと思えますので、御承知いただきたいと思えます。

事務局からは以上でございます。

◎**松田委員長** ありがとうございます。ただいまの報告につきまして、何か御質問並びに御意見等ございましたらいただきたいと思えますが、いかがでしょうか。

この試行に関しまして、5名の委員の皆様方に御参加いただきまして、副委員長、何か一言、コメントがございましたら。

◎**金尾副委員長** ありがとうございます。ウェブ会議の試行で参加させていただきました。皆様、特に回線等混乱もなく、積極的に御参加いただけて、スムーズにいったかと思っております。ただ、やはり意見交換のやり方等は、本会議でやるとなると試行のときよりも人数が増えてまいりますので、その点はまだ検討していければいいのかなと思った次第です。

◎**松田委員長** ありがとうございます。そのほか、よろしいでしょうか。

こういうコロナ禍というようなこともございますが、こういうことをきっかけに、オンラインというものの持っている役割をしっかりと見据えた形で、更に生かしていこうというような機運も高まっているところでございますので、確かに集合しないと話せないという状態に対して、集合しなくても話せるということは、参加の条件が緩やかになるということも一方ではありますし、ところが、一方では、やはりしっかりと対面しないと意見が交わし合えないというような、そういうメリット・デメリットというのは多々あるところだと思うんですけども、こういう新しいやり方というものに対して、本会議でも試行という形で行っておりますが、今後とも検討をぜひ続けることができると思えますので、一つよろしく願いいたします。

◎松田委員長 それでは、ないようでしたら、次、式次第の2「理想の市民参加について」に移らせていただきたいと思います。

前回の会議の最後に、目指すべき市民参加とはということで、委員の皆様方に少し考えていただきました。また、事務局より事前調査をしていただきまして、補足追記などもいただいたところでございます。今後、市民参加のためにこういうことをしてくださいという市に対する提言を考えていこうと思うわけですが、そのきっかけとして、目指すものを、まずは先んじて考えていただいたというところかと思えます。

そこで本日は、ここから課題を洗い出しつつ、その対応策といいますか、提言に向けての議論を進めさせていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、まず、事前調査を踏まえた資料がございますので、事務局より御説明いただければと思います。よろしくお願いいたします。

◎事務局 それでは、お手元の資料2「「理想の市民参加」について（委員御意見まとめ）」という資料を御覧いただきたいと思います。こちらは、理想の市民参加について、前回の会議でいただいた御意見につきまして、事前に御確認をいただきまして、まとめたものでございます。

◎松田委員長 ありがとうございます。この資料は事前送付されておりましたので、既に御覧になられた委員の方も多々と思えますけれども、この御意見を読んでいただいて、特にお感じになられたことや、あるいは、御自身の御意見で少しこれを逆に伝えたいというようなところ等、まずございましたら、少し資料を見ていただいた感想ということでいただければと思うんですけれども、いかがでございましょうか。委員の皆様方のほうで出していただいた内容について、更に少し説明を加えていただくとか、そういうことも含めまして、もしコメントがございましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、これから1つずつ、意見に関して議論をしていきたいと思えますので、その際にもぜひ付け加えをいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、一旦これで意見としては集約させていただいているということで、次の議論に移っていききたいと思います。

◎松田委員長 それでは、式次第の3で「課題と解決策の洗い出しについて」でございます。

では、事務局より御説明いただきたいと思います。

◎事務局 それでは、説明させていただきます。こちらにあります資料2のとおり、理想の市民参加につきまして、一旦皆さんの御意見をいただいたところでございます。そして、ここに書かれた理想像につきましては、何かしら課題などがあって、現時点では実現していないものかと思えます。ですので、ここで課題を洗い出し、そして、その課題に対する解決策を考えるということを進めることで、提言に向けた議論を進めていくことができるのではないかと考え

ております。

今回と次回の会議で、この課題と解決策の洗い出しを行っていただきまして、その中から今後、市に対する提言の内容についても考えていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

◎松田委員長 ありがとうございます。

それでは、これからこの資料2を使いまして、ここを出していただきました理想像、それに対する御意見ということを少し深く掘り下げながら、ここに含まれている課題というものを改めてお話し合いいただくとともに、その課題をどう解決していくかということについても御意見をいただきながら、今期のこの会議の提言につなげていくことができればと思っております。

それでは、1つずつ少し見ていただきながら、進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

では、まず、第1番目の意見からいきたいと思っております。こちらでは、意見をもらいやすい手法というもの、あるいは、実際に集まるというのではなくて、市民の皆さんの意見を集約していくというような在り方について、少し触れていただいているところでございますけれども、こちらを見ていただきまして、少し関連して思われること、あるいはこれに触発されて、こういう課題も実はひもづいてあるのではないかというようなこと等ございましたら、まずちょっと御意見いただきたいと思うんですけれども、いかがでしょうか。

◎鴨下委員 これを見ていて思ったんですけれども、企業とかがアンケートをすると、「何かプレゼント」みたいなものがあるじゃないですか。ああいうやつで、市のアンケートに回答すると、ポイントがたまると商店街とか、商店街はないか、どこかお店で使えるような何かになるというのは、システム的に無理なんですかね、小金井市で。あったらやるかなと思って。何かメリットがないと、それじゃあ、やらないかしらとちょっと思って。

◎松田委員長 確かに意見をくださいと言っても、なかなか1つ壁がある中で、そういう小金井市の例えば商店街での商品券だとか、あるいは何かインセンティブとでもいうんですかね。

◎鴨下委員 そうです。

◎松田委員長 何か出そうとするときの動機づけとか、あるいは、出したことで小金井市の何かステッカーがもらえるとか……。すみません、今のはちょっと滑ってしまいました。

◎鴨下委員 はい。こきんちゃんとかですね。

◎松田委員長 モデルと言っていいんでしょうかね、はい。そのようなことは、今まで小金井市ではなさったりしたことがあるんですか。

◎事務局 あんまりやられてはいないですね。物によって、何かお返しをしたものが全くないとは言えないと思うんですけど、通常はやってはいないと思います。

◎岡田委員 鴨下さんの意見と似ているんですけれども、私はインスタグラムとかをしているんですけど、やっぱりフォローして「いいね」を押してくれたら、その人たちの中から例えばプレゼントを差し上げますなんていうと、大体興味なくてもフォローってしちゃうんですよ。

何千名だか何百名の中から3人だけなんですけど、こんなものをプレゼントしますと言われてだけで、その1か月、2か月はずっとフォローしているわけですから、そこに目もいきますし、何かツイッターでも何でもいいんですけど、こっちの個人情報全部出ないようにするような方法で、簡単に本当に参加できるものがあったほうがいいのかなど。プラス、インセンティブもあってというか、なおかつ、小金井市のPRになるようなことであるとかというのがあったらいいかなと思います。

そのポイントが、今、ポイ活とかはすごくみんな、主婦とかいろんな人、張り切ってやっている人がたくさんいるので、ほかの市がやっていないのであれば、先陣を切ってやってもいいのではないかなという感じはいたしました。

あと、私、ちょっと分からないので教えてほしいんですけど、あまり小金井市のもの……、もともとこちらの出身ではないので、小金井市の例えば特産とか名産って何になるんですか。何かプレゼントをしたら、何でしょうか。何かよくカニとかエビとかありますが。

◎事務局 そうですね、今たくさん生産しているということではないかもしれないんですけど、例えば栗ですね。御用栗というんですか、そういったものがもともと有名であったというようなことはあると思います。

◎岡田委員 ありがとうございます。

◎松田委員長 関連していかがでしょうか。確かに1番のところでは、方法というところで、アンケートとか、あるいはネット、特にSNSですね、今のお話ですと、そういうものというところでの御意見だったんですけども、そこに加えて、そういうやはりアンケートを出したいとか意見を出したくなるような仕掛けということ、更にその仕掛けが小金井市のPRとか、市民参加ということがより豊かになるような方向に働きかけができるようなものを、考えてみてはどうだというようなことですね。なるほどと思いました。

この前、小金井市、アド街ック天国でやっていましたよね。あのときに何か、ああ、そんな面白いものがあるんだと思ったんですけど、御用栗は出ていなかったですね、そのとき。何か今日は新しい発見をさせていただきました。

ほかは、この1番に関わって何かございますでしょうか。市民の皆さんの参加というときに、確かに御意見をいろんな形でどう集めるか、どう出していただけるかというのは、資料をざっと見ましても、割と共通して土台にあるような課題になっているのかなと、ちょっと感じます。

じゃあ、そのあたりもちょっと含んでいただきながら、次、2番のほうをちょっとまた見てみたいと思います。また後で気付かれたときに、戻っていただいても全然構いませんので。

じゃあ、2つ目の御意見としては、逆に意見をしたいと思ったときに、どこに言えばいいのかというのが分からない、そういうことがある。それをどうすればいいかなということで、いただいているところです。結局、そういうときになかなか行動に移せないということがあるので、そういう場合に市に簡単に伝えられるシステムができればいいなど、そういう御意見でございますけれども、これに関して何か、いかがでしょうか。例えば実際にこういうことを御経

験されたとか、そういうようなことも含めて、少し教えていただければなと思ったりするんですが。

ちょっと世代が古いんですけど、御意見箱のようなものはあるんですかね、今。

◎事務局 一応ございます。市長への手紙だとかメールだとかいう形で、何でも出せるようなものはございますが……。

◎事務局 実際に箱があるわけではないんですけども。

◎事務局 そうなんですね。

◎岡田委員 どれぐらい来るんですか、例えば1か月で。

◎岡田委員 1日ででもいいんですけど。ごめんなさい、どっちでもいいんですけど。

◎事務局 ぱっとは分からないんですが、結構な件数は来ていたはずですよ。年間で何千件も来ているぐらいの。

◎岡田委員 回答というのはされているんですか。

◎事務局 一つ一つしています。

◎松田委員長 やっぱりメディアとしては、今ですからデジタルなんかが多いわけですか。

◎事務局 どうなんでしょうか。ファクスとかでも結構来るようですよ、窓口を持ってこられる方もいらっしゃるの、ちょっとぱっと出ないんですが、どちらも同じぐらいは来ているのかなという印象はございますが。

◎岡田委員 質問です。岡田です。それは、意見というか、クレームとかが多いんですか。分からないんですけど、本当にすごいイメージでごめんなさい。こうしたらすばらしい市ができるとかではなくて、クレームとかが多いですか。

◎事務局 やはり何か市に伝えたいことがあるというときに、お叱りを受けることもありますし、そういった御意見とか、こういうところをこういうふうにしてほしいとか、そういうものは多いと思います。ただ、数はそれに比べて少ないのかもしれないですけども、お褒めの言葉というのをいただくこともございます。

◎中村委員 よろしいですか。

◎松田委員長 はい。

◎中村委員 私、たしか小金井市報を見た覚えがあるんですけど、たしか市長への手紙ですか、それを何かジャンル別に分析されて公表されていた。そこに、たしかクレームとか、そういう分け方はしていなかったんですけども、分野ごとに、どういう分野の声があったかというのを、分野に、ジャンルに分けて整理されて、市報に載せておられたというのを、私、見たことがあるんです。そうですね。

◎事務局 そうですね。

◎中村委員 そういう形で、市報でそういう周知行為はされているというのは、見たことがあります。

◎事務局 年に1回まとめて、広報の担当部署が、ホームページと市報にまとめた報告書を掲

載させていただいております。

◎松田委員長 そうしますと、現在でもそういう形で、市民の皆さんからのお声が届いて、市のほうも一定程度、それに対してお答えを出されるというようなこともあるんですけども、そういう中で、ただ、更にやはり何か意見をしたいときに、どう言えばいいのかが分からないというような、そういうお気持ちも同時に存在しているということなんですよ。そのあたりはどのような問題だとお感じになりますか。

◎金尾副委員長 よろしいですか。

◎松田委員長 はい。

◎金尾副委員長 多分先ほどの、伝統的には目安箱的なものもあるし、分析もされて回答もされるという仕組みはあるのに、事前に私もデジタルなものでクリック1つで行けるかなと思ってホームページを拝見してから来たんですけど、恐らくトップページからは、一発ではたどり着けない。どこかにはあるんだと思いますけど、リンクとかがあればという、システムはあるけれども単純にアクセスがしづらいという現状があるかと思います。まず現状はというところ、あるのに活用できないというツールの使いこなしというか、洗練化というものが、最も必要なかなという印象を受けました。

◎松田委員長 いかがでしょう。

◎中村委員 度々すみません。こういう市民からの意見を吸収する窓口として、これは市報とかホームページにも出ているんですけども、市長との対話集会というのを市のほうでやっているということで、これはたしか四半期に一遍ぐらいですかね。どうなんでしょう。

◎事務局 そうですね。

◎中村委員 それで、ですから、3か月か4か月に一遍ぐらいは大体やっておられます。気になって、ちょっと、どのぐらいの参加数かなと思って見たら、その写真も出ているんですけども、残念ながら、あまり多くは参加されていないという現状があるみたいですね。ちなみに、私は一度もまだ参加したことがないです。そういう形の、意見を言う窓口もありますという御報告です。

場所は、ちなみにいろんなところでやっておられまして、偏らずに、市の北のほうであったり南のほうであったり、東であったり西であったり、満遍なくやっておられますけど、残念ながら参加者数は10人前後じゃないですかね、たしか。私の記憶ではそう記憶しています。そういうことも、市としては積極的にやっておられるということです。

◎松田委員長 ほかはいかがでしょうか。

◎岡田委員 多分、意見があるとか、どうしても伝えたいことがある人は、どんな手段を取ってでも伝えに来ると思うんですよ。市長のお話のところにも足を運ぶ人というのは、やっぱり意識がかなり高い方なのではないかなと、私の中では思うんですけど、多分、理想の市民参加ということを考えると、どなたでも気軽に、ちょっとしたことでも伝えられるということが重要だと思うので、何か本当にイエスかノーぐらいで答えられるようなことを、「住んでいて

楽しいですか」、「いいえ」みたいな、「はい」とか。「いいえ」を先に言ったけど、「はい」とか、そういう感じで回答できるような場面というのがどこかにもうちょっとあると、例えば私はいろんなところに転勤してきて、ここへ住んでいて、ごみ収集がすばらしいとか、手紙がこの冊子ですから、こんな分かりやすい冊子この世にないと思うぐらい感動したんですよ、ほかの地域とは全然違って。

なので、いいところとかを意外とさっと言えそうな場所とか、あれでも不満と思っている人もいるかもしれませんし、何か本当にすごく簡単なことでいいので、子どもたちでもいいですし、さくっと、何か、提案書みたいなことを考えていない人でも参加できるようなツールが、あったほうがいいのかなと私は感じます。

◎松田委員長 ほかはいかがでしょうか。

いただいている御意見を伺っていますと、なるほどなど。特に現在の小金井でそういう仕組みがいろいろある、また、行政のトップである市長が、それぞれの市民の皆さんとも対話をされるような場も持たれていると。更には、クレームだけではなくて、逆に小金井のよさみたいなことも言いたいし、もうちょっと今そこを、そういうふうに強く働きかけをできる方だけではなくて、いわゆる理想の市民参加という観点から、どのような方でも気軽にちょっと声を出せる、そういうようなものが仕組みとして更にあればいいというようなことで、本当になるほどなどと思って伺いました。

割と課題として皆さんの御意見が分かるような問題に関しては、例えば市役所にイエス・ノーボタンなんかがあって、来たときにそれをぽんとどちらか押していただとか、そういうイメージですね、先ほど岡田委員がおっしゃったのは。

◎岡田委員 そうです。

◎松田委員長 そうですね、そんなちょっと柔らかさと、でも、非常に大勢の方が気軽にやっぱりアクセスできるような在り方というのは、ひょっとしたらいろいろ工夫すると、あるのかもしれないですね。

ほかはいかがですか。この意見を言いやすい仕組みというようなことに関して。

じゃあ、少しそのまま、次の項目に移っていきたいと思います。

3番のところは、いろんな人の意見が聞けて、いろんなことが言えることというのがいいのではないかと。肯定的なこと、否定的なこともということで、そういうことが反映されるというよりは、御自身の意見を市に聞いていただける、あるいは、そういう意味では本当に参加ということだと思えるんですけども、そういうことが大事なのではないかということで、大変、今お話ししていただいていた内容と重なるところかと思えますけれども、改めて見ていただいて、何か思われるようなことがございましたらお願いしたいと思えますけど、いかがでしょうか。

何か思っていることを聞いていただく場があるというのは、ちょっと安心ができることですね。そういう意味で、先ほどのいろいろな窓口というものがあるということだったんですけど

ども。

◎中村委員 よろしいですか。

◎松田委員長 はい。

◎中村委員 この3番の件について申しますと、やはり自分の意見が取り上げられる、つまりは自分の意見をみんなに知ってもらおうという意味で、1つ情報共有というのがあります。それからあと、自分の意見が実際形になって実現すれば理想形なんですけど、そういう形でのフィードバックというか、実現化するということですね。ただ単に取り上げられるということではなしに、情報共有するとともに、実現されれば理想だと。そういう意味ではフィードバックですね。そういうことができれば、理想の市民参加に近づけるんじゃないかなということと、やっぱりできるだけ、先ほど岡田委員からもありましたけれども、敷居を低くして、意見を吸い上げるシステムというところは、そういう仕掛けを行政のほうで工夫しながら設けるといのが大事じゃないかな。

例えばその1つの実験場としては、やっぱり市の公共施設のところに、何かそういう市民の意見を吸い上げられるような仕掛け、例えばアンケートを置いておくとか、簡単に、敷居を低く、意見を吸い上げられるようなシステムを、公共施設などを通じて活用されるのがいいんじゃないかなと。例えばその公共施設としては、公民館であったり図書館であったり、あるいは体育館であったり、いろいろあると思うんですね。あるいは集会室ですよ。そういうことは、簡単なところからやっていって、できるだけいろんな人が回答しやすいような形での仕掛けを、公共施設を利用することによって実施していくということで、なおかつその情報が、どんな意見が出たかというのを情報共有できる、そしてまたフィードバックしていくシステムを作ることが大事じゃないかなと感じました。

◎松田委員長 いかがでしょうか。今のお話を伺っていて、確かに例えば若い方だと、ICTなんていうのは非常にたけていらっしゃるというか、もう日常的に使われますけど、我々世代ぐらいになるとやっぱり苦手なところもあって、そういうときに、自分の生活動線の中に、そういうぱっと意見を出せる場所がある——今、公共施設ということをおっしゃっておられましたけど、そういうことが充実するというのは確かに意見が言いやすいですし、チャンネルがたくさんあると、種類がたくさんあるということは必要だなと思って伺いました。

それと、今の共有されることとフィードバックされることという、この仕組みがやっぱり伴っているということが大事だというのは、本当におっしゃるとおりだなと。御自身の意見が、例えば市報なんかでも、こういう御意見がありましたみたいなことを紹介されたときって、すごくやっぱり市民として小金井ということを感じたり、充実感につながったりということも、本当に多いと思いますので。

このあたり、公共施設での情報の収集みたいなことというのは、現在は何かなさっているようなところはあるんですか。

◎事務局 今、そうですね、何かすぐ書いて出していただけるようなものを設置しているかど

うかというのは、ぱっと頭に浮かびませんので、現在はやっていないかもしれないですね。

◎松田委員長 はい。

◎中村委員 例えば貫井きたまちセンターあたりでは、いろんな件に関するパブリックコメントがありますね。パブリックコメントの意見を言うためのシートが置いてあったりしますね。それ自体が1つの意見の集約というか、集計というか、そういう仕掛けじゃないかなど。実は実際に市でやっておられます。パブコメの何か用紙とか置いてありますよね。あといろんな、例えば審議会の委員の募集の用紙が置いてあったり、私も結構気にしながら見ているんですけども、結構市で頑張ってると思うんですよ。パブコメも市民参加の1つだと思います。

◎事務局 そうですね。パブリックコメントの場合は、そういった市のいろいろな施設にも設置して、皆さんに見ていただくということでやっておりますので、そこはやっております。

◎松田委員長 一方で、ちょっと思っていましたのが、こういう会議体があるということ、この市民参加推進会議とか、あるいは子育てに関連する会議なんかもそうなんですけれども、非常に傍聴の席を用意したりもしてくださったときに、市民の皆さんが熱心に参加してくださるとか、それと、市の施策を検討していくような会議に、非常に市民の皆さんがアクセスしやすいというようなところは、でも、小金井市の割と特徴じゃないかなど思ったりもするところがあるんですけど、そんなことはお感じになられたりすることはあまりないですか。

◎中村委員 よろしいですか。ちょっと、すみません、しゃべり過ぎて申し訳ありません。

◎松田委員長 いえいえ。

◎中村委員 小金井市としては、ほかの市がどうだかというのは全く存じないんですけども、何か事業をやるとか、市のほうが主体的に何か事業を進めようとする際に、結構小金井市というのは割と丁寧に、説明会とかを何回も何回もやって、勝手に独断で進めるということではなしに、結構民主的な形で、丁寧に意見を聞きながら事を進めておられるなという感じはしますね、既に。それで、例えば新庁舎に関する説明会なんかも、結構何回も何回も丁寧にやっておられる感じがしますよね。

それだけやっぱり割と、総じて思うのは、民主的に市民の意見を吸い上げる場というのは、結構行政のほうで努力されて設けられているという感じは、市民としてはいたします。しかも頻繁に、手間をかけて、理解してもらうまでしつこく……、しつこくと言ったら言い方が悪いんですけども、丁寧にやっておられると思いますよ、私は。

◎松田委員長 やっぱりいろいろな観点からの御意見を更にいただけたらと思いますけれども、もし何かお感じになっていることがあったら、いかがですか。逆に、いや、小金井はこういうところがまずいんじゃないとか、本当にいろいろあると思うんですけど。市民が参加される、ちょっと広い意味での仕組みといいますか、制度みたいなところのお話かなと思いますが。よろしいですか。

そうしたら、いろいろな御意見をいただきながら、じゃあ、次、4番のほうへ移っていき

いと思うんですけども、自分が住んでいるところに対してもっとこうだったらいいのと思っているところを、もっと伝えようとしている、意思を伝えられる、意見を伝えられるシステムがあったり、考えを持てるようになって自由に表現できるようになるといいなと思う。これは、意見を伝える仕組みとともに、伝えられる方自身の、市民としてのアイデンティティーとか、市民としての成長とか、そういうところもちよっと含んだ御意見かなと思いますけれども、いかがでしょうか。

◎金尾副委員長 よろしいですか。今までお話をお伺いして、市民参加と言ったときにも、一番強く要対応、対応してくださいというレベルのものもあるし、単純に共有したいというレベルのものもあって、それから3つ目に特段不満はないけれども、市政を身近に感じたいレベルの市民参加って多分あるのかなと思って、それぞれの目的によって、意見集約のやり方や身近に感じる手法とか、いろいろあるんだろうなと思って、目的別でいろいろ、パブリックコメントシートですか、そこにあたりという何か整理や情報共有ができていない感があるので、その現状整理も必要かなと感じました。それを皆さんと共有できれば、アクセスしやすいのかなと思ったりしました。

共有の手段と方法なんだと思いますけど、例えば、今日冒頭に資料1で頂戴している意見・提案シートとかも、これは何か内容的には、きっと聞き入れていただいたりして共有のものが多いかと思うんですけど、一番最後の点なんかは、多分、御関心のある具体的なプラン名とかが入っていたりするんで、ああ、こういうことも、きっと興味・御関心の高い分野なんだろうなというふうな共有もできたりしますので、そういうふうな目的別で手段を考えないといけなないというのが、1つございます。

それから、あと手法のほうでございましてけれども、先ほど委員長からも、年代によってやりやすい手法って変わるとか、あと動線で、市の施設に入られる方は、きっと紙媒体とかでもアクセスされやすいんだろうなというのは、お伺いして思いました。

私はあまり公共施設に足を踏み入れないものですから、SNSが多くなってしまいうけなんですけども、身近に感じるとかだったらSNSもいろいろありますので、どこまで手を広げるかというのはかなり検討しないとイケないとは思んですけど、今までお話に上がったのだと、身近に感じるだったら多分インスタとかに、何か光景の画像を共有するとかいうのもありますし、ちょっと飛んでしまいますけど、イエス・ノーのお話が多分ちょっと出てきていたと思いますけど、それレベルであれば、母数とか集合体はどういう人たちがアクセスしてくるかによる等あるので公平性が保ち方は難しいですが、ツイッターのアンケートとかもあつたりするので、そういうのに精通された運営というのが必要なのかなとは思いました。

◎松田委員長 ありがとうございます。

いかがでしょうか。

◎金尾副委員長 すみません、追加でよろしいでしょうか。今、話にツイッターを上げてしまったのであれですけど、多分、ツイッターも活用されていないわけではなくて、もう既にいる

んな課が多分、小金井市の各課でアカウントをお持ちで、いろいろ情報発信されているんだと思うんです。それで、ざっと見て、全部フォローすると結構な数になってしまって、どれを見れば自分の興味関心に該当するのかが若干分かりづらいというのは、市民レベルではちょっと感じたところなんです。何か同じような分野がたくさんアカウントで出てきたりするので、それは些末なことで大変恐縮なんですけど、SNSの使い分けみたいところで、実際の運営になると、そこまできっと市民レベルでは気にされていくかなと個人的には思いました。

◎松田委員長 課で公式アカウントをお持ちなんですか。

◎事務局 現在の運用はそうですね。去年ぐらいまでは市で1つのアカウントだったんですが、今、課で1つ持って、もっと発信していこうという趣旨でそういう運用になっているんですが、多分おっしゃったように、いっぱいアカウントが出来上がってしまっているんで、全部追いかけるのはちょっと大変かなという状態にはなっています。

◎金尾副委員長 やっぱりそれも、市役所のほうではもう既に発信されていらっしゃるのに、市民側が活用し切れていない、情報を受け止め切れていないという問題が、ちょっとあるかもとは思いました。

◎松田委員長 いかがでしょうか。

逆に、炎上したりしたことはないんですか。

◎事務局 今のところは聞いてはいないですね。

◎松田委員長 そうですか、なるほど。いや、本当に身近になるという意味ではすごい力のあるものだと思っていて、いいなと思うんですけど、一方で、非常に双方向の、本当に自由に出せる中で、炎上みたいなことというのはよくあって、市が公式のアカウントでという話になったときに、情報の確からしさみたいなことが、逆に市民の皆さんから何かちょっとクレームが出るとか、そういうことは、じゃあ、あまりないわけですね。

◎事務局 そうですね。リプライもフォローも何もしないルールでやっているの。

◎松田委員長 ああ、なるほど。

◎事務局 なので、逆に言うと、双方向というか、一方方向の発信になってしまっているというか、しているというか、状態ですので、炎上も逆にしづらいのかもしれないですね。

◎松田委員長 ただ、最近はその身近さを更に生み出すために、炎上を狙って仕掛けるという手もなきにしもあらずなんですけど。すみません、ちょっと脱線した話で。ああ、なるほどですね。

今、非常にきめの細かい対象とか目的とか、あるいは方法というもので、よりいろんな方が、どの場面で、いろんな形でアクセスができるようにというようなことで、少しいろいろお話してくださって、なるほどなと思いますけど。

いかがでしょうか。

◎岡田委員 ごめんなさい、可能かどうか分からないんですけど、例えば当市の広報紙がありますよね。あれはすごく、私、結構読むのが好きなんですけど、今はあまりコロナとかの関係

でないんですが、お料理教室をやっていますとかいったら、行ってみようかなとか思ったりするんですけど、あと、健診とかの情報とかもあるんですけど、本当、2分の1ぐらい使って、「御意見、ここにアクセスください」みたいなことってできるんですかね。が一んと、例えばインスタグラムのアカウントをぼーんと載せて、ぜひフォローしてくださいみたいな、どーんと、どーんとって。どーんと行こうみたいな、載せることとかはどうなんでしょうか。

◎事務局 物理的には可能なんですよ。ただ、あれも結構いろいろ載せたいものを落として、あの紙面に収めているところもあるので、なかなかどーんとというのは難しいところはあるとは思いますが。

◎岡田委員 あまり小さいとやっぱり見ないので、どーんとあると、ちょっとフォローしてみようかなみたいな感じになるのかなと、ちょっと思ったので。

以上です。

◎中村委員 よろしいですか。

◎松田委員長 はい。

◎中村委員 今、そういう意味ではどーんと載せるチャンスだと思うんですね。というのは、結構、今イベントとかそういうのがコロナ禍で減っているわけですから、そういうスペースが今かなり空いてきていますからね。イベント関係がすかすかなんです、よく気をつけて見ているんですけど。そうすると、どーんと載せるのも、今ならチャンスかなというところはありませんよね。そういうふう思います、個人的には。

◎松田委員長 ぜひどーんと、では。

◎事務局 伝えておきます。

◎松田委員長 それでは、次、5番目のところに移りたいんですけども、人によって、理想の市政との関わり方というのは全然違うと。その人に合った深さと関わり方をすべきであって、最終的には、他人事ではなく自分のこととして市政を考えられる人が1人でも増えればいいと。

先ほどの考えを持てるようにというようなことと、少し向き合うようなところがございますが、今までにも随分、やはり人によって違うという、多様なところもいろいろ御意見とか、お話の中でできていると思いますけれども、いかがでしょうか。

市政が自分事になるというのが、本当に大事なことだとは思いますが、難しいことですね。この辺、何か御意見がありましたら、ちょっといただければと思うんですが。

◎鴨下委員 こういうふうに分事として考えられるようになるのが理想なので、まずは入り口として、そのイエス・ノーとか、どーんと広告とか、そこから入って、10年後、20年後ぐらいに、自分事として捉える人の割合が今より増えていけば、いいんじゃないかなと思います。いざすぐには結構難しいと思います。

◎松田委員長 なるほど。しかも、そういう成長していくというか、人が少しずつ変わっていく、増えていくという、まちの、小金井市自体の成長になるのかもしれないです。おっしゃるとおりですね。

ほかはいかがでしょうか。

なかなか市政というものと向き合うそのきっかけというのは、非常に人それぞれな気がするんですね。先ほども、何かお願い事があるというようなことがあったり、あるいは逆に、そういう意味では、ちょっと関連しますが、クレームみたいなことで考えられたり、あるいは、あるものを共有して「へー」と思ったり、何らかのきっかけで身近なものとして捉えられたり、本当にいろいろな機会というのがあると思うんですけど、例えば委員の皆さんが市政というものをちょっと身近に感じられたときというのは、あるいは、何がしか自分との関係があるのかななんて思えたことだったりというのは、場面として御紹介いただいたりというのはいかがでしょうか。

◎鴨下委員 私こそ全然何も、他人事という人だったんですよ、ある日突然、無作為抽出のがきが家に届くまで。届いて、あ、そうかみたいな、別に、どうせ私いつもくじ運悪いし、当たらないだろうみたいな。送ったら、あれって。あ、そうか。当選というか、お願いしますというところになってから、改めて市政、市のことについて考える機会が増えました。

◎松田委員長 ああ、なるほどですね。

◎鴨下委員 何も別に考えていなかったです。無作為抽出も1つの手だったんです。

◎岡田委員 私も、無作為抽出の手紙がある日突然来て、応募したというのが一番最初のきっかけで、本当に縁もゆかりもなかったというか、子どもの学校がたまたま近かったので、新宿区のほうから引っ越してきたんですね、そもそも。それで、住んで、無作為抽出のが来たり、そういうのだけで、三、四回いろんなものが結構来ている家なんですよ。子どもの参加する何とかみたいなのか、市長さんを交えてコンサートの招待、いかがですかみたいなのか、主人宛てにも何か来たことがありますし、だから、小金井市さんってすごく積極的なところなんだなど、私はそういう意識がもともと……。大阪とかに住んでいたとき、1回も来たことがないので、ああ、すごいところなんだなというふうに、1つはすごく感じました。

◎松田委員長 ほか、いかがでしょうか。

大変恐縮いたしますが、そろそろ私のほうからも、ぜひちょっとお声を聞かせていただきたいということで、少しお名前を述べさせていただけたらとか思い始めているのですが、橋田委員、いかがですか。

◎橋田委員 そうですね、自分がさっきからの意見の話について言うと、例えばお褒めの言葉に関しても、例えば市の職員の誰々さんの対応がすごくよかったとかいうのを伝えて、それがその人に伝わっているというのが実感できて、やっと1つ完成した形というか。なので、それを、こういう声をいただいてありがとうございますみたいな返事がどこかで見えたり、人によっては、意見ってすごく広いと思うんですけど、問題点と、あと解決方法とかいろいろあると思うんですけど、1人で問題点と解決方法まで出せる人って、すごく多分少なくて、問題点だけとか、逆に解決方法だけだったら出せるという人もいると思うんですよ。なので、何かそういう得意分野が多分あると思うんですけど、誰かが出した問題点に対して、解決方法だけを提

示できる何かのシステム、例えばインターネットとかは本当にそうだと思うんですけど、「知恵袋」みたいな、そういう仕組みを作れば、いろんな人が自分の得意なところで参加できるのではないかと思います。

以上でございます。

◎松田委員長 ほかはいかがでしょうか。

◎竹田委員 私も先ほどの岡田委員、鴨下委員と一緒に選ばれた者なんですけれども、それで、無作為で選ばれるので、本当に市政というのは、すみません、あまり興味はなかったんですけども、選ばれて、この今の会議に参加させていただくようになって、いろいろ広報もちゃんと見るようになりましたので。今、コロナ禍で、いろいろな場所には出かけられてはいないので、中村委員みたいにいろいろ出歩いてチェックとかは、まだできていないんですが、自分は今、小さい子どもがいるんですけど、なので、今一番興味がある課といえば保育課なんですけど、そういう各人に興味のある課が1つでもあったら、そこに何か簡単に意見ができるようなシステムがない。ツイッターとかも見たんですが、ちょっとよく分からなかったもので、何かもっと簡単に、誰でも分かるようなようなところに、ボタンが欲しいです。

以上です。

◎松田委員長 分かりやすさとか、最初のアクセスのしやすさって大事ですよ。

◎竹田委員 はい。

◎松田委員長 その壁ってというのがありますよね、本当に。

いかがですか。

◎村本委員 私は物心がついたときからずっと小金井市に住んでいるんですけど、正直、住んでいてよかったなと思ったこともなく、逆に、住んでいて悪かったなと思ったこともないぐらい、本当に無というか、全然。多分、比べるものがないので、これが当たり前で通っていたので、それが悪いか否かというところも分からないので、どっちがいいですかと言われると、こっちがいいですと言えるんですけど、それがいいのか悪いのかというのが、比べるものがないと言いつらいなと思うので、意見がないというか、そういうことを考えたことがない人も、私みたいに住んでいる人だったら、いるんじゃないかなというのは感じました。

◎松田委員長 本当に空気のような感じになっているというか、あれですよ。

◎村本委員 そうです。ただ、住んでいるだけという感じになっていて。

◎松田委員長 なるほど。

じゃあ、南委員、いかがですか。

◎南委員 僕は、小金井市でちょっと団体活動をしておりまして、その中で今年、団体で持っているホームページをちょっと担当させていただいてまして、小金井市で事業を行わせていただいたんですけども、そのホームページの内容を作る際に調べたことが、やはり一番上のほうに来る文字というのは、大体皆さん、スクロールするときに見られるということで、どんどん下に下がれば下がるほど、閲覧が少なくなってくるというのがありますので、いかに見出

し、引きつけるところがあるところにちゃんと持ってこられるかどうか。そこに持ってこられると目につくので、やはり意見もしやすい、ワンクリックで意見がぼんと飛べるようなシステムにすれば、もう少し皆さんも見ていただけたら、クリックしていただいて、のぞいていただけるんじゃないかなと、少し思いました。

◎松田委員長 そういう意味では、さっきのどーんに行こうというのはやっぱり重要なんですね。

◎南委員 そうですね。多分見る箇所があるので、必ず。

◎松田委員長 そうですね。

続いて、天野委員、お願いしていいですか。

◎天野委員 市民参加について、皆さんの意見をまた今日も聞かせていただきまして、ありがとうございます。なかなか抽象的な話であったりして難しいんですけども、いろんな意見が出るってよかったなと思います。例えばポイントがあって市民参加しやすいとかいうようなこともそうなんですけれども、やっぱりちょっとありがたいというか、感謝もするのは、無作為抽出の方というのは非常によかったんですね。2人ぐらいのときだって、すごくうれしく、面白くできたんですけども、それがだんだん拡散しているとか、増えてきているとか、そうなっているということは、少しずつ無作為抽出によって市民参加というのが広がっているというようなことのまた御意見もいただいたので、非常にありがたかったなと思います。

また、なかなか話をするとか、難しいこともあるかもしれないんですけども、どんなことでもいいから、そういう生活の観点からでもいいですので、小金井市にとって、市政に参加るとか難しくではなくて、何か言えるとかいうようなことでもいいので、言っていただければありがたいと思いますので、これからもよろしくお願いします。

◎松田委員長 確かにそれぞれ、もちろん自分が前へ出てという形での参加もあるんですけど、やはり何がしかのきっかけが本当に偶然的にあって、そのことで自分がはっと何か触発されて参加へ至るとい、そういうきっかけを逆にしっかりと作っていくというようなことというのは大事なことなんだと、今もお話を伺っていて思いました。

いっそのことあれじゃないですか、もう市民の皆さん全員に、さも無作為抽出だったような。ついちょっと脱線してしまいましたけど、すみません。申し訳ございません。

◎松田委員長 そういう働きかけがやっぱり大事なんだと、すみません、ちょっと冗談が過ぎましたけれども、思いました。

じゃあ、いろいろ御意見をいただく中ですけども、次、6番をちょっと見てみたいと思います。シティズンシップというもの。小金井市に住んでいてよかったと思えるような形に、できるだけたくさんの方が、数的に多くなるというのが1つの理想じゃないかというようなことですね。

この小金井市に住んでいてよかったというのは、さっき村本委員がおっしゃってくれましたけれども、何か積極的に「いいところよ」ということではなくて、ただそのまま受け入れている

るということが、実は、いつの時点で振り返るのか分からないですけども、ああ、よかったんだと思うときがあるかもしれないと思って、それはバラ色に過ぎますでしょうか。

◎**村本委員** もしかしたらほかのところに行ったときに、やっぱり小金井市はよかったんだなって気づくことはあるかもしれないですね。もうそれこそ入り口がないので、こういうことをしているんだとか、小金井市のやっついてよかったランキングとかを見たら、あったりしたら楽しいなと思います。

◎**松田委員長** 先ほど来、小金井市のよさというのが何回も出てきたりというのがありますけれども、本当に地域のアイデンティティーとか、それにつながるシティズンシップという言葉がありますけど、市民としての思いとか誇りとか、そういうものが高まっていくというのは、確かに参加ということとの関係が深いのかなと思いますが、いかがでしょうか。何か御意見ございましたら。

◎**中村委員** よろしいですか。私がこの文章を書いたんですけども、提案者としてちょっと補足させていただきますと、市のほうでたしかアンケートを取られた結果、小金井市の住民に対してアンケートを取って、定住志向を聞いたところ、かなり定住志向が高いというデータが出たんですね。それとまた関連して、小金井市の人口はずっと右肩上がりです。これは、恐らく近隣では、こういう右肩上がりはありませんと思うんですけど、どうですか。

◎**天野委員** 都内のほうの人口状況なんですけど、西多摩のあたりが、人口減少が出てきているということはあるんですけど、このあたりは割り方増えているということはあります。ただ、小金井は、もう微増傾向というのは、今年度においても、今年の8月だったかな、都内の三多摩地区では1番あたりの形で小金井は増えているということはあります。

◎**中村委員** 今、天野委員がおっしゃったように、そういう意味で、やっぱり小金井市というのは、住んでいる人間もそうなんですけども、よそから見ても結構、子育て世代にとっては結構理想的な教育環境が出来上がっているところじゃないかなと思っています。文教都市たるゆえんだと思うんですね。

そういう意味で、魅力はあるんですけど、案外住んでいる人はあまりそれを感じていないとか、村本委員がおっしゃったように、空気みたいな感じだとおっしゃいましたけれども、その空気みたいな感じというのは結構大事だと思うんですね。私が思い出したのは、中国古代の堯・舜の時代に、たしか皇帝が、何か住民に対してどう思っているかと聞いたら、いや、何も思わない、空気みたいで、別に治世がどうだこうだは何も感じたことないというふうなことを、住民が言ったらしんですね。その治世が実は理想的だということを、聞いたことがあります。住んでいる人は何もいいとか悪いとか感じないけれども、空気みたいで、やっぱり空気がなかったら駄目ですから、そういう治世というのは、案外小金井というのは実現できているような感じはするんです。

別に何が取り立てていいとか悪いとかいうことはないんですけど、住んでいて心地よいとか、そういう肌感覚というのは、私自身住んでいて思います。ですから、そういう意味では、

今、理想の治世になりつつあるんじゃないかな。ごみ問題も幸い解消されて、もうあとは、特に懸案事項というのはそんなに多くないように思いますので、今、そういうことで、他市の人からも、住んでみたいということで人口も増えているし、住んでいる人は定住志向も高いという意味で、シティズンシップと言うとちょっと大げさなんですけれども、やっぱり愛着を感じている人というのは案外多いんじゃないかと。

そういう愛着が多い状態というのは、市民参加も積極的にしようとする人が多いんじゃないかなという状況で、こういう状態が、もっともっとよい状態がずっと続くことが、やっぱり理想的な状態、理想の市民参加に近づくんじゃないかなと思います。

◎松田委員長 ほかはいかがでしょうか。

◎天野委員 今、中村委員から言っていたことなんですけれども、小金井市でも、シティプロモーション基本方針というのを令和元年5月に策定したんですけれども、やはり小金井にとって、誇りを持って、愛着を持ったりしていただいて、小金井のまちを選ばれるまちにしていくというようなことは、一応政策としては戦略的にやってきているつもりではいるんですね。なので、そういったものを、また職員だとか市民の方たちにも、そういう基本方針と一緒にやっていく、小金井市にとって愛着を持っていくというようなことをやっていければ、より市民参加にもいいように進んでいくのかなという気がしました。よろしく。

◎松田委員長 そういう意味では、そういうものを更に高めていくときに、何か委員の皆さん、アイデアとしてこんなことをやってみたらどうだとか、そういうのはございませんですかね。現在もいろいろ取り組んでくださっているということなんですけれども。

◎岡田委員 今日、村本さんがおっしゃっていたように、住んでいる人にはやっぱり気づけない、ずっと定住している方には気づけない部分というのは、結構外から入ってくるというか、学生さんもそうだと思うんですけど、今ちょっと学校が休みとかでいらっしやらないかもしれないんですけど、自分が今まで住んでいたところと比べてどうなんだろうみたいなことを何か言える場があったら、大分よさというか、あるんじゃないかな。

例えば、本当に住んでみて感じるのは、公園がすごく多いし大きいしとか、あと、悪そうな子がいないとか、みんな本当にいい子にしか見えないとか、お子さんの不良とかは見ただことないです。コンビニの前とかも全然いないです、怖い子とか。何かすごく環境もいいですし、よそから来た方の意見というのを、ちょっとまとめて出してみると、ずっと住んでいる方にとっては、あ、ほかはこのようにうちば随分いいところに住んでいたんだなとかって、思い返せる場というのできるのではないかなと思いました。

◎中村委員 中村ですけど、ちょっとすみません、しゃべり過ぎまして。私、ちょっと通常の会社員をやっているんですけど、それ以外に、休日を利用して市民活動とか、そういうのをやっている中で、小金井市の学校関係の先生方とお話しする機会が多いんです。先生方いわく、ほかの小金井市以外の学校の先生をやっておられる方が、小金井市の市内の学校に転入されてきた。それで、先生の印象を聞いてみますと、非常に手がかからない子が多いと。先生に

としてはそういう意味では楽なんです。ですから、手のかからない子が多くて、親が教育熱心な関係もあり、非常に育ちのいいお子さんが多いという印象なんです。

ですから、そういう意味では、先生にとっては手のかからない子たちが多いということで、あまり小金井市に転入されてきた先生方は、市外への異動希望って出されない。それだけ教育的な環境が整っているという表れなんです。非行なんていうのもほとんど、いじめとかは多少あるかもしれませんが、他市に比べると教育環境が充実しているということで、教育熱心な親が多いし、生徒たちも粒がそろっている、素直な子が多いという一般論ですけど、そういう声をよく耳にします。だから、そういう意味では、それがデータに表れていて、やっぱり人口も増えていきますし、定着志向も高いということだと思います。御参考までに。

◎松田委員長　そういう意味では、確かに教育ということが、環境として非常にいろんな形で安定していて、整っているという面があるというふうには伺っていたんですけども、もちろん、私のような役割からいたしますと、そういう安定しているところもいいですけども、もちろんはちゃめちゃでとがっている子がいっぱいいるところも、それはそれでまたいいわけでございまして、決して、子どもが多様であるということは、それはそれで1つのまた魅力だと思うんですが、小金井には、またそういう意味では独特の、そういうやっぱり子育てに関する魅力があるというのは、本当におっしゃるとおりだなと思います。

定住志向が強いというの、本当にあれですね、1つの特徴ですかね、そういう意味では。

小金井市のよさが、いろんな形で市民の皆さんもお話合いができて、そういうことを共有するとともに、またいろんなところで広げていくといいますか、そんなことがどうすればできるのかなみたいなことも、ちょっと考えることができたらと思いますけど。

それでは、次、7番、サイレントマジョリティーのこと、意見を持っていても大きな声に出して言えない人の声を吸い上げられるような市民参加でないといけないのではないかと。これも、先ほど来、実はちょっとずつ御意見をいただいているところなんですけど、確かにこれも重要な意見だと思いますけれども、いかがでしょうか。

2枚目の一番最後の17番のところでは、サイレントマジョリティーに対してサイレントマイノリティーという言葉は聞かないけど、サイレントマイノリティーへの働きかけ・配慮もあったほうがいいんじゃないかというような御意見もあって、ちょっと関連して、もし何かお感じになられるようなことがありましたら、御意見いただけたらと思うんですけども、いかがでしょうか。

◎橋田委員　ちょっと僕の体験談で言うと、前に住んでいたまちの図書館が改装になって、そのときに棚が高くなったときがあったんですけど、そうすると、高齢者の方とかが高くなった部分を、一応台とかがあって、職員の方には取ってもらえますとかいうふうにはなっているんですけど、だんだん申し訳なくなって、上の段のものを使わなくなるんですね。それって多分、最初の頃は不便だなと思っているんですけど、だんだん諦めて、意見もなくなっていくと思うんですよ。

というふうに、やっぱり意見を言うってすごいエネルギーが要るし、大変なことなので、ほとんどのことって、諦めて意見がないようになっていくと思うので、何かその部分を周りが気づくか、もっと意見を言いやすくして、拾えるようになればいいと思います。

◎松田委員長　いかがでしょうか。

思っちはいらっしゃるんだけどなかなか言葉に出ないというか、声を上げられないような状況というのは、本当にいろんな形であって、そういうものをちょっと拾っていきけるような何か仕組みといいますか、アイデアというのがもし併せてあるようでしたら、ちょっと御意見をいただけたらありがたいと思うんですが。

◎中村委員　7番を提案しました提案者として補足させていただきますと、私、サイレントマジョリティーとよく言いたくなるんですけども、力点はどっちかというと、マジョリティーというよりもサイレントのほうに力点があります。ですから、サイレントであれば、別にマジョリティーであれマイノリティーであれ、いいと思うんですけど、要は私が言いたかったのは、弱者というか、弱い立場の人の意見を吸い上げられるシステムを構築するのが、やっぱり理想の市政というか、市民参加じゃないかなと思うんですね。

大きい声で意見を言う人は、特に促さなくても意見は言ってくれるわけですけども、弱い人とか恥ずかしいとか、そういった人って、結構多いと思うんです。そういった人の意見を吸い上げるべきじゃないか。そういったところにこそ真実があるんじゃないかなと思います。そういう意味で、私はサイレントに力点を置きます。おとなしい人とか弱い人とか、そういう弱者に対する配慮をできるような市民参加であってほしいなというところが趣旨です。

◎金尾副委員長　よろしいですか。今の中村委員の御趣旨に賛同いたします。マジョリティー、マイノリティー関係なく、サイレント層がとても大事かと思えます。

その対応ですが、サイレント層はとても難しいように思います。サイレント層には、現状に満足しているし、むしろ公のものからは自由にさせてほしいという層もいらっしゃると思うんですよね。自由にのびのびと満足ですというタイプもいらっしゃると思います。一方で、橋田委員からも御指摘あったように、不満がちょっとあったのに諦めていて、意見もあって、でも何となく言う場もなくってという、そのサイレント層を救出することは非常に大事で、そういった方々にはアクセスの方法とか意見集約の方法とかがとても大事になってくるというように感じました。

プラス、もう一つサイレント層で、先ほど村本委員がおっしゃられていた、現状満足だけでも、よりよい住環境とかを持っていくときには、これとこれを比べたらこっちがいいというふうに、提示されたら言えるというサイレント層も多分いると思って、そこは多分、よりよい市政をしていくためにはきっと必要だけど、候補を提示するのは、これは市政のリード・主導、リーダーシップが求められて、イエスかノーか、市民からリアクションをもらうために提示してみるみたいなものぐらいがあると、という感じなのかなと。サイレント層によってもいろいろな対応があり得るかなという印象を受けております。

◎松田委員長 そうですね。

いかがでしょうか。

そこは、市民の皆さんの声を引き受けて、コンセンサスを作っていくという、プル型のそういうコンセンサスづくりもあれば、逆にプッシュして行って、投げかけられることで、何か皆さんがあっと思って固まっていく、まとまる、作っていくという、プッシュ型のコンセンサスというのもあると思いますし、それは、おしゃっていたように、サイレント層というところの動きをいかに参加へと促していくかというようなことの動きなんだと、今、改めて伺っていて思いました。

確かにマジョリティー、マイノリティー関係なく、本当にサイレント層の市民参加って大事だと思って、併せて、サイレントマイノリティーというのは確かにあまり言葉は聞かないんですけど、確かに隣に声の大きな人がいたら、ちょっと言えないな、言っちゃまずいなみたいな、そういう関係性というのは、日常的に確かにありますよね。あるいは、逆に自分が非常に厳しい立場にあったり、そういう場合に、いわゆる一般的と呼ばれるような方々の声があるときに、なかなか自分の声を上げられないという、そういうような場面というのは、今だとどういふところであれですかね。福祉とかいろんなところで、多分取り組まれているとは思いますが。

◎天野委員 すみません。今回、10月15日の小金井の市報に載せさせていただいたんですけども、パートナーシップ宣誓制度を小金井市、始めました。市では、多様性を認め合い、人が人として尊重され、誰もが自分らしく生きることができる地域社会の実現を目指すということで、小金井のほうも考えてきていたわけですね。今回、マイノリティーという方々に寄り添うという形の気持ちを市としてやっていくということで、パートナーシップ宣誓制度を始めたということがあるので、こういったことも市として言っていかなきゃいけないのかなと思います。

◎松田委員長 なるほどね。

本当にいろいろな取組をされているので、ぜひそれが更に市民の皆さんの存じ上げるところになるといいですか、周知の方法というのがやっぱり更に大切なわけですね。

◎中村委員 すみません、しゃべり過ぎまして。今さっき松田委員長がおっしゃった中で、福祉という言葉、ジャンルが出ましたけれども、またちょっとカタカナで、英語で申し訳ないですけど、福祉用語で、皆さん御存じだと思いますけど、アウトリーチという用語がありますね。このアウトリーチというのは、非常にいい言葉じゃないかなと思うんですね。やっぱりアウトリーチがちゃんとできていれば、いわゆる今ちまたで話題の地域包括支援とか、そういったこともうまく進むということで、そういう意味では、そのアウトリーチ、困った人に行政とかのほうから手を差し伸べるというアプローチが、やっぱり市民参加においても、福祉だけじゃなしに、当然こういう行政の市民参加においても重要じゃないかなということで、サイレント層に対してアウトリーチでこちらから、行政のほうとか、困った人に対する手を差し伸べるとい

う意味でのアウトリーチって、私、大変好きな言葉なんですけれども、そういう働きかけが大事なんじゃないかな。ちょっと福祉のほうに突っ込んでしまったけれども、そういうふうに思っています。

◎岡田委員 天野委員に質問なんですけど、パートナーシップに関して広報にお出しになっていらっしゃるんですけど、何かそれに対しての意見であるとか、そこに行くまでに何か意見があったのかというのを教えていただけますか。

◎天野委員 こちら、要綱で今回作ったんですけれども、その要綱においても、パブリックコメントを行っているので、意見はいろいろいただいているし、実際に性的少数者というような方々からも意見をいただいたりというようなところで、いろいろ考えながら、今回のこの宣誓制度になったんです。

◎岡田委員 今回お出ししてみて、何か意見とかはありましたか。

◎天野委員 これをやってから、そうですね、実際本人の方々もそうだし、こういったことに対してよかったというかな、そういう御意見をいただいた人もいるし……、が多いかな、基本的には。

◎松田委員長 本当に届かないといけないところとか届けたいところに、実は情報が届かないということはよくあることで、そういうときに、このアウトリーチという言葉がありましたけれども、参加ということからすると、その方面へのやっぱり取組というのがありますね。本当に大切なことだなって、今改めて思っていました。

それでしたら、時間のほうもどんどん過ぎていきますので、あと8番、9番、まず1枚目を本日は行ければということで、既にもう今までも少し重なって意見も出ているところなんですけれども、8番のほうでは、各種審議会について、もっと市民の皆様によく知っていただく、興味を持っていただくという課題ですね。9番のところでは、やはりこれまでお話しされてきたようなことが繰り返し出てくるわけなんですけれども、自由に意見が言えるということと、そういうものが逆に市のほうへ跳ね返って行って反映される、施策等に含まれていくという、そういうキャッチボールができるような、そういう仕組みというものはどういうふうに考えればいだろうかということで、本当に今日のお話の中で繰り返し出てきているところなんですけれども、この8番、9番を見ていただきながら、何かお考え、御意見等ございましたらいただきたいと思えますけれども、いかがでしょうか。

審議会を、例えばそれこそオンラインで配信するみたいなことというのは、なかなかやっぱり難しいことなんですかね。

◎事務局 今のところは、委員の方の個人情報ですとかをインターネット上に載せていいものかみたいところが、まだ解決しておりません。

◎松田委員長 確かにそういうところはありますね。傍聴というようなことが用意される場合が多いと思うんですけど、非常に日常の生活の中で身近に触れているという、そういう仕組みが何か工夫できればいいなとは思っています。

ほかはいかがでしょうか。

相当重なったところでの御意見にもなっているところがありますので、本日、本当にいろいろな、多様な観点からの御意見をいただいているところがございますので、時間のほうもそろそろかなというところがありますので、一旦、今日は資料2の半分、9番までを少し取り上げさせていただいて、課題と、その課題に対する解決策ということを少し御検討いただいたということで、ひとまず今日はこれで、この議題に関しては止めておきたいと思います。

引き続き次回も、10番以降を含めまして、今日のところにも戻っていただいても結構かと思っておりますので、お話しを続けられたいと思いますので、この間、もしお感じになられることや、関連してまた御意見等ございましたら、事務局のほうにもいただけたらと思いますので、よろしくお願ひいたします。ありがとうございました。

それでは、事務局のほうにここで進行をお渡ししたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

◎事務局 皆様、お疲れ様でした。本日いただきました御意見は、まとめさせていただいて、次回、資料として配付をさせていただきます。引き続き次回も御議論いただきまして、課題と解決策の洗い出しについて、よろしくお願ひしたいと思ひます。

◎松田委員長 それでは、次の第4の議題に入っていきたいと思ひます。会議録等の公開についてでございます。こちら、1件御報告があるということですので、事務局からお願ひしたいと思ひます。

◎事務局 市民参加条例において、条例の運用状況についてはこの市民参加推進会議の役割でありまして、市の運用について一定整理した案件がございますので、この場で報告をさせていただきます。

審議会等の会議録や資料などについては、会議の終了後などにホームページ等で公表しております。これは、市民参加条例第7条で会議録の公開を努力義務としておりまして、市民の方が市政情報を知るための手段として、会議録を公表することで、検討の状況を明らかにするという趣旨でございます。

ただし、公開の方法については具体的に決まっていないため、その公開のタイミングや資料の添付の有無などが、担当課によって統一されていない場合があります。市民の方から、見つからないなど御意見をいただくことがございました。このたび、資料の3としてお配りしております「附属機関における会議録等の公開について」のとおり、市役所の全庁へ周知をさせていただきました。資料を御覧いただきたいと思ひます。

まず1点目、会議録の公表のタイミングにつきましては、会議によって、すぐにホームページ上に上がるものもあれば、時間がかかっているものがあるという御意見をいただいているところですが、これは、会議録の作成を委託しているかどうか、また校正に関わる関係者の人数などで変わってしまうところがございますので、具体的に何日とかという決め方は難しいもの

ですから、「可能な限り速やかに」という表現で、全庁に周知をしております。

また2点目、会議の資料の公開についてですが、もともと条例上、資料の公開というところは義務づけられておりませんので、公開をしていない会議もございますが、やはり資料を公開してほしいという趣旨の御意見をいただいているところです。例えば紙の資料、冊子など、そういったものしかない場合など、ホームページ上で公開しづらいものもありますが、公開の会議で出している資料については、会議終了後、可能な限り速やかに公開するというので、周知をさせていただいております。

また3点目、ホームページへの公開です。規定上、ホームページへの公開は義務づけはされておきませんが、現在デジタル化が進む時代に、データで公開しないという理由はございませんので、原則ホームページに公開するという形に整理させていただいております。

どれも原則という形ではありますが、一定運用を整理させていただきまして、引き続き条例を適切に運用できるように努めていきたいと考えております。

報告は以上です。

◎松田委員長 ありがとうございます。それでは、ただいまの御説明に関しまして、皆様から御質問、御意見等ございますでしょうか。

(「なし」の声あり)

◎松田委員長 よろしゅうございますでしょうか。

それでは、こういう形で事務局のほうで御整理いただいて、進めていただければと思いますので、よろしいでしょうか。ありがとうございます。

◎松田委員長 それでは、本日、最後の議題になります。次回の会議の開催日についてでございます。

それでは、事務局からお願いいたします。

◎事務局 今後の予定につきまして、資料4、第8期市民参加推進会議工程表を配付させていただいております。次回につきましては、1月から2月頃を検討しておりますが、日程につきましては、また改めて調整をさせていただければと思います。よろしくお願いいたします。

◎松田委員長 1月から2月ということで、詳しくは追って調整させていただきたいということでございます。

それでは、議題のほうは、用意したものは以上でございますけれども、委員の皆様方から何かこの場でということはいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、事務局からお願いしたいと思っております。

◎事務局 最後に、ウェブ会議につきまして、事務局から1点ございます。

さきにお伝えしましたとおり、市におきましても、ウェブ会議の環境で審議会を行うことができるようになっておきまして、会議の開催も可能でございます。この件について御協議をい

ただきたいと思っております。

ウェブ会議につきましては、接触を避けるという点で非常にメリットのある手法ではありますが、一方で、ITに明るくない方が発言しづらい、また会議に時間がかかるというようなデメリットも感じているところです。また、映像、音声などの情報がインターネットに載るものでございますので、通常の会議よりも個人情報や肖像権の侵害のリスクがあると一般的に言われるものでありますので、利用に当たりましては会議としての同意を必要としております。

事前に皆さんから御意見をいただいております。ウェブで参加したいとされた方は約半数という結果となっており、約半数の方は、ウェブ会議だとしても会議室で参加したいという御意見をいただいております。ウェブで参加される方と会議室で参加される方が混在することも、システム的には可能となっております。

会議の内容によりまして、ウェブ会議に向かないものもありますので、ここで、今後ウェブ会議を使うということを決めるわけではなく、例えば緊急時など、ウェブ会議を使いたいときに使うということについての御協議をお願いしたいと思っております。また、この審議会でも積極的に使っていきたいなどの御意見についても、いただければと思っております。

◎松田委員長 ありがとうございます。今の御説明の趣旨は、この会議はウェブ会議でやりたいとかということでは直接にはなくて、場合によってはウェブ会議を導入するという、そのこと自体を、前提的に御了解をいただいてもよろしいですかということだと思います。場合によっては、今後コロナの感染状況が更に悪化するというようなこともあり得るかもしれませんし、冒頭にも述べましたように、一方では、ウェブ会議が持っている、コロナ時期ということとは別のメリットということももちろんございますので、そういう意味で、広く会議の1つの方法論として、場合によってはそういう形での開催の仕方を検討するということについて、前提的にちょっと御了解を得たいと、そういう趣旨かと思っております。

この件につきまして、何か御意見等ございましたらいただきたいのですが、いかがでしょうか。

(「なし」の声あり)

◎松田委員長 よろしいでしょうか。それでは、そういう形で事務局のほうで利用されるということに対しての、推進会議としての同意ということ、ここでお諮りさせていただいたということで、進めさせていただきたいと思っております。ありがとうございます。

それでは、本日用意しました内容は以上でございます。

改めて何かございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

では、これもちまして、第59回市民参加推進会議を終わらせていただきます。どうもお疲れさまでした。

(午後8時48分閉会)